

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場 広報こうた係
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線344)
FAX63-5139



今月の表紙は、2月16日(月)に撮影した幸田文化公園のテニスコート西側で咲いている梅の花(手前は紅梅・奥は白梅、梅はバラ科サクラ属の落葉高木)の写真です。当日は風もあり寒かったですが幸田保育園の園児が散歩に来ていました。

今月の表紙

幸田の民話

「弁慶の切り岩とながもち」 荻

京の五条の橋の上 大の男の弁慶は長いなぎなた振り上げて 牛若めがけて切りかかる・・・この「牛若丸」の歌でも知られている、大男で力持ちの弁慶についてのお話は、幸田町荻にもあります。荻の北峯の山に、大きな岩があります。ある時、弁慶がここを通りかかりました。

「これはこれは、大きな岩だ。運んでいって、庭の石にしよう。」

そう思った弁慶は、

「えい、やあ。」

とかけ声をかけ、ありったけの力を出して動かそうとしましたが、岩はびくともしませんでした。

「ええい、しゃくだ。三つに切って運ぼう。」

そう思いなおして、背中に、しゃっている七つ道具の中から、大きなのこぎりを取り出して、岩を切り始めました。ずいこずいこ、汗だくだくになりながら、やっと一つ切ることができました。二つめを切っている時、のこぎりの歯が欠けてしまいました。

「ええい、いまいまい。もう止めた、止めた。」

こうして、その岩は、今も、そのまま山の中にあります。

また、内田さんの山にも、長さが三メートル余りもある大きな岩があります。

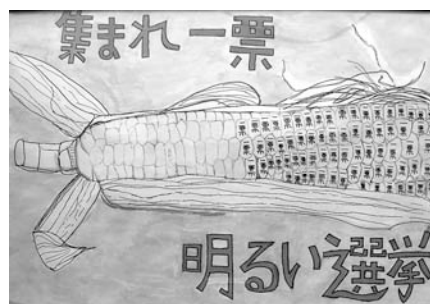
「これはいい。ながもちにするのにぴったりの石だ。」

ながもちというのは、着物や大事な品物をしまっておく、長方形の、ふたのある大きな箱のことです。むかしは、お嫁さんのきれいな着物やふとんなどを入れて運んだ、お嫁入り道具の一つでした。石のながもちなら、弁慶の持ち物にふさわしいものでしょう。

「えい、やあ。」

弁慶は渾身の力をこめて持ち上げようとしたのですが、びくともしませんでした。さすがの弁慶もあきらめました。

こうして、弁慶の切り岩も、弁慶のながもちも、今も荻の山の中に、そのまま置かれたままになっています。(「こうたの民話」の要約)



【ポスター】

豊坂小6 ^{やまもと}山本 ^{さえ}彩瑛 ^{さん}さん

みんなの作品展!



【ポスター】

幸田中2 ^{おおすか}大須賀 ^{はじめ}肇 ^{くん}くん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、広報こうた係までお送りください(デジカメ写真の場合はメールで!)

今月の記念日

3月4日は「ミシンの日」

一七九〇年に、英国のトーマス・セントが世界で初めて皮革を縫うミシンを発明しました。一九九〇年(平成二年)がちょうど「ミシン発明二百年」にあたることから、社団法人日本縫製機械工業会が、平成3年に制定しました。

家庭用ミシンは、家庭にとつての必需品から、現在では、趣味として手軽に衣服や小物を作るための存在に変わりつつあります。時代は移り変わっても、自らの手で衣服を作ること、その喜びを味わえるミシンの魅力は変わることはありません。

そうした魅力を伝えようと日本縫製機械工業会では、「3月4日はミシンの日」関連事業などを通じて、ホームソーイングの普及に努めています。

小中高校生対象の「ホームソーイング作品コンクール」は、若い世代にミシンを使用した作品作りを通して、手作りの喜びやソーイングの楽しさを認識してもらうために、毎年開催されています。

ミシンは長く使うものですから、購入の際は、情報を集めることが大事です。機能面や価格面で差があるため、使用目的と予算に合わせて購入を検討します。また、どのような素材の生地を縫うのかを想定して選ぶようにします。



青春トークリレー

△△第192走者△△

かもした さおり
鴨下 沙緒里 さん

驚田区在住 23歳 学生

身長 166cm B型

好きなタイプ 優しく、一緒にいて安心感がある人

好きな芸能人 玉木 宏

私は、今看護系の大学に通っています。将来は看護師として臨床経験を積んだ後、保健師になり地域の人たちの健康を支えていきたいと考えています。

また、学業と平行し介護の仕事もやっていますが、患者さんの笑顔や「ありがとう。」と感謝の言葉をいただいた瞬間に、とてもやりがいを感じています。まだまだ未熟でみなさんから教えていただくことが多いのですが、毎日が勉強で、いろんなことを吸収し、少しでも看護師として成長できるようがんばっていきたいと思っています。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。希望者は企画政策課まで。



そのときの風向きは西からで、東の方面に一齐に飛んでいったのですが、その後2人（蒲郡市と岡崎市桑谷町）のかたから保育園に

拾ったという連絡が入りました。ひまわりが咲いたら写真を撮って送ってくださいとおっしゃってくださいました。どのくらいの人に拾ってもらったのかはわか



りませんが、夢を飛ばした子ども達の気持ちは届いたようです。もしも拾われたなら、今からでも是非一報をくださるとうれしく思います。

わんぱくたいよう 「某月某日」 「坂崎保育園」 飛んでいった風船

▼「星の王子様」を皆さんは読んだ事がありますか？実は、私は昨年初めて読んだのです。これはフランスの作家サン＝テグジュペリが書いたもので、子供の心を失ってしまった大人に向けての大切な言葉がちりばめられています。例えば「大切なものは、目に見えない」など・・・読んでいない人は是非読んでみてください。

その彼が、「愛は、見つめ合うことではなく、同じ方向を見ること」と言っています。夫婦が同じ方向に歩いていくためには、会話が最も有効な手段になります。肝に命じておきたいのですが、先日こんな会話がありました。娘「お父さんって、頭よくないよね。私の方がいいよね。」母「どうして？」娘「だって、お父さんはお母さんに言われたことをすぐに忘れちゃうんだもん。」母「・・・（するどい）・・・こんなところで謝ってもなんですが、「いつもごめんなさい。」です。」（R）

▽3月、1年のうちでは3番目の月で、「弥生」と言います。

日本では、学校などが修了、会社や役所では決算月でもあり、年度末にあたります。でも師走のような賑やかさはありません。

なんか淋しいような気もしますが、皆さんにとってはどんな月かわず、始まりの準備をする月、活力を貯める月としたいものですね。（T）

ちよと編集者のひまわり